

目黒区地域福祉審議会会議録

名 称	令和5年度第4回目黒区地域福祉審議会
日 時	令和5年12月5日(火)午後6時～8時
会 場	総合庁舎地下1階 第18・19会議室
出席委員	石渡会長、北本副会長、平岡委員、武藤委員、山本委員、松原委員、脇山委員、寺田委員、松崎委員、島崎委員、岡村委員、我妻委員、稲生委員、内海委員、高井委員、南部委員
欠席委員	中島委員、香取委員、徳永委員、長崎委員、吉田委員、今井委員、内川委員、王委員、岩崎専門委員
区側職員	橋本健康福祉部長、石原健康推進部長、田中子育て支援部長、田邊健康福祉計画課長、相藤介護保険課長、田中障害施策推進課長兼障害者支援課長、保坂福祉総合課長、高橋高齢福祉課長、香川健康推進課長、齋藤保健予防課長、中尾子ども家庭支援センター所長、寺尾教育指導課長、山内教育支援課長
傍聴者	なし
配布資料	<p>【事前配付資料】</p> <p>資料1 保健医療福祉計画について 資料2 介護保険事業計画について 資料3 障害者計画について 資料4 チラシ「福祉の計画の素案説明会にお越しください」</p> <p>【当日配付資料】</p> <p>資料5 今後の予定について 委員名簿・区側出席者名簿 座席表 令和5年第1～3回地域福祉審議会会議録(案) 第4～5回地域福祉審議会計画改定専門委員会会議録(案)(専門委員のみに配付) チラシ「意思決定支援の基本的考え方について」</p>
会議次第 及び 主な発言	<p>1 開会 委員の16名が出席しており、定足数を満たした。</p> <p>2 次第1 目黒区保健医療福祉計画改定素案について 次第2 第9期目黒区介護保険事業計画素案について 次第3 目黒区障害者計画(第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画)改定素案について</p> <p>副会長 まず先日の答申、本日の進行についてお伝えしたい。9月15日に、会長・副会長の2名で区長に答申書を提出した。区長からは「答申をしっかり受け止め、目黒区の福祉を進めていく」との言葉をいただいた。各計画の素案がまとまったため、本日は区から3計画素案を一括して説明いただき、その後質問等をしていきたい。今後のスケジュールは後ほど説明される予定だが、本年度の審議会開催は本日が最後となる。</p> <p>それでは、次第1～3、各計画素案について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>健康福祉計画課長 (資料1より説明) 介護保険課長 (資料2より説明) 障害施策推進課長 (資料3より説明)</p>

会長 3計画素案は、皆様の貴重なご意見を踏まえ、新しい法律や社会変化に応じて整理されたものとする。本日は今年度最後の審議となるため、3つの計画素案についてのご質問・ご意見等を伺いたい。

副会長 内容が体系的にまとまり、またカラー刷りで見やすい。

保健医療福祉計画素案の80ページ「現状と課題」に、深刻な人材不足の課題解消のために介護・福祉人材センター等の取組が検討される旨が記載されたことに感謝する。引き続き、皆が心配している課題を深く掘り下げてほしい。

同70ページ中段に「家族介護者の支援」について、報道等ではヤングケアラーのような家族介護者の分類として「ビジネスケアラー」という言葉が使われ始めた。男女ともに仕事と介護を抱える人に対し、どう両立させるかという視点を入れることも必要と考える。

また、今回の策定には間に合わないが、困難な課題を抱える女性の問題も重要だと考える。お示しいただいている計画素案の目次では、この問題がどの部分で展開するのかが見えず、その点を懸念している。

会長 大事なお指摘に感謝する。可能であれば、更に加筆をお願いしたい。他にご意見等はあるか。

委員 3計画とも体系は共通して「基本理念→基本目標→施策」の形となっているが、それ以降の部分で、国の各計画の指針が異なる中、各々の計画で独自性を出している部分があれば伺いたい。

健康福祉計画課長 保健医療福祉計画素案では、これまで1つ1つの事業をかなり具体的に記載していたが、今回は各事業の細かな数値目標を示すというよりは、重視する方向性や取組を主に記載している。

障害施策推進課長 障害者計画素案は、現行計画から大きく内容を変えるものではなく、基本目標・基本施策の構成を見直し、レイアウトの変更や文字数を減らす工夫により、すっきり見やすくしている。

会長 他にご意見等はあるか。

【意見なし】

それでは、それぞれのお立場から、目黒区の福祉の今後について、一言ずつ発言いただきたい。

委員 障害者計画素案の15ページ「児童の保護者向けアンケート結果」で、発達に関する不安や障害のある子が、『早期に適切な支援を受けるために必要なこと』が記載されているが、計画として具体的にどのようなになっているか。

障害施策推進課長 障害者計画素案の64ページ「施策12 障害児支援体制の充実」の取組36～39が該当する施策になる。そのうち、取組36「児童発達支援センターの機能強化」が重要と考えており、令和6年度は関係機関と連携しながら取り組んでいきたい。

委員 具体的な相談体制も充実してくると考えているが、保護者の方が最初にどこへ相談すればよいかをHPや冊子で周知していただけるようお願いしたい。

委員 途中から1年間のみ参加させていただき、いよいよ計画改定を迎える。計画期間が3年または5年だが、近年の社会の変化は著しく、5年後の予測も難しいと思われる。計画ありきの施策とは思いますが、時代の流れに即して柔軟に対応できるゆとりも持っていただき、この素晴らしい計画に沿って、新たな実施期間に入っていけたらと思う。

委員 当法人では、精神障害の方の日中の通所施設・グループホームの運営、長

期入院されている方の退院に向けての動機づけ支援の事業を行っている。他の事業所の方と話す機会があり、「区内で相談支援事業所が1か所閉鎖した」、「社会福祉法人の後継者がなかなか育たず、他法人と統合する」などを耳にし、前向きになれなかった。内容が整理され、コラムも読みやすくまとめられている計画素案を読み、少しでも前向きな気持ちで進めていけたらと思っている。

委員 包括的な計画を拝見し、区役所の担当部署はこんなに広いのかと感心している。医師会では災害医療計画を担当しているが、保健医療福祉計画素案の54ページ「施策6 災害時要配慮者支援の推進」は非常に重要なことと改めて思う。目黒区は今年10月、区内の9病院と「緊急医療救護所」に関する協定を締結し、12月の区報でも区民に公表されている。長年の期待が叶えられたが、その分重圧も責任も大きいと感じている。「災害時要配慮者」の支援は一般の避難者とは異なり、支援で配慮すべき点が多様化している。例えば、施策では「災害弱者」に外国人も含まれているが、外国の方は通常の診察でも時間・労力がかかる。プランの「誰一人取り残さない」は、支える側にとっては負担の大きい内容と思った。

障害者計画素案の10ページ「障害者計画策定に関する調査の概要」で、本人が回答できる障害の方は多いと思うが、どなたが回答することになっているのか。

障害施策推進課長 アンケート調査は、基本にご本人にご回答いただく形を取っているが、ご本人の回答が難しい場合にはどなたかが代理で、ご本人の意思を汲んで回答することは可能となっている。

委員 薬剤師会でも、緊急医療救護所（9か所）への薬剤の配置や、発災後に薬剤師会会員の薬剤師が救護所での活動に加わるなど、支援に関わっている。要介護者の方やひとり暮らしの方がどのようにして救護所までたどり着くか、たどり着いた方を我々がどのようにフォローすればよいのか、事例の周知等も含めて考えていく必要があると考える。

計画素案は非常にきれいで読みやすくできており、大事に保管・活用されると思う。各ページ下部に音声コードがついているが、ご存じない方のために、読み取り用のアプリのダウンロード先に飛べるコード等も、どこかに記載するとよいのではと思う。

委員 内容も大変よいと感じている。過去に行政で福祉の仕事をしており、公募委員に応募したのも福祉に関わる方々にエールを送りたい気持ちからだった。PDCAサイクルは、職員の方々にしかできないので、一所懸命行っていたことをお願いしたい。この審議会ですべてに福祉に関わったことがよい動機づけとなり、来年は福祉やボランティア等の参加できる活動を探そうと考えている。

委員 介護予防・フレイル予防の活動に実際に参加している方から、「参加前よりも休まず歩けるようになった」「複数回の買い物にも行けるようになり、活動性が高まった」という声を耳にすることが多く、効果は上がっていると感じている。都市部でのコミュニティ形成の難しさもある中で、「友人ができ、1日に数回でも声をあげて笑える機会があることもよかった」との声もある。

高齢者が増加することは決まっていますが、要支援・要介護の高齢者が増えることは決まっていない。介護予防が重要であるが、現在の介護予防参加者は後期高齢者が多い。介護保険とは制度が違つかもしれないが、もっと手前の50代後半～60代の方々を対象にした、介護予防にフォーカスした体操教室等を開催していくことが、先々の要支援・要介護状態の予防につながっていくと考える。

委員 今回初めて公募委員として参加し、改めて組織の深さ、親身になって考え

てくださる皆様に頭が下がる思いである。

近年、発達障害の方が増えており、保護者のとまどいや不安が大きく、障害がわかった時にも傷つき、受け入れ難い気持ちがあると感じている。障害者計画素案の概要版8ページにも記載があるが、ペアレントメンターの養成がこれからは大事になってくると考える。ヤングケアラー、ビジネスケアラーの話も出たが、私の職場でも「介護を抱えているため、辞めなければならない」という相談を複数人から受けたばかりであり、ビジネスケアラーも社会問題化してくるのではと思う。ここにも取り組んでいければと考えており、方策も検討いただければと願っている。

委員 普段は子育て広場のスタッフや、小学校での支援員、ファミリーサポートで保育園から家への送り迎えなど、子ども関連に携わっている。この審議会では福祉の幅が広く、自分の知る範囲で考えさせてもらっていた。

待機児童解消の取組で、待機がゼロになっていても、まともな調整の仕方ではないことがある保育園の例から、何でも数値を目標にすれば良いとは思っていない。保育園に行くのが「当たり前」となる一方で、幼稚園が定員割れを起こしていることに危機感を持っている。時代は変わったが、幼稚園・保育園が共存するようなやり方はないかと考えている。また、小学校の通常学級で、障害のある子どもへの支援が難しい現実がある。そうしたことも取り上げてほしい。

委員 初めて委員となったが、長年住んでいても知らないこと、教えられることばかりで、感謝している。読みやすい計画素案で、これなら誰でも読めると感じている。区報も読みやすく、区民も区報から様々なことに関心を持たれるのだと思う。

私は消費生活相談の相談員をしているが、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることの大切さを考えさせられる2年間だった。

委員 目黒区で15年、地域の発達障害、学びづらさや生きづらさを持つ子やその家族と一緒に福祉の仕事に就いてきた。今回委員となったことで、皆様がこんなに懸命に、私達の生活を支えてくれていることがわかり、とても感謝している。この「わかったこと」を区民としてしっかり伝えていきたい。また、事業者として、これだけ充実した制度・支援を、支援を受けられていない、また生きづらさを抱えた方たちにつながるように、発信して届けていきたい。今後、より複雑化する状況の中、次代を担う若者の支援（居場所等）・家族支援（ペアレントメンター等）についても、充実していくとよいと思う。

様々な関係機関、当事者や家族会、現場に立つ方々などが、より協力・連携し、多様な知識やつながりを持つことは、よりよい対応につながる。専門家も市民も協力し合える体制の構築を、区でもご検討いただけるとありがたい。

委員 目黒区老人クラブ連合会は50年の歴史があるが、「老人」の名称を変えようという意見が多く、10年余りの検討の結果、今年4月の総会にて名称変更となった。名称は昨年公募し、約500通の候補の中から「竹の子」となった。変更後は『老人』は嫌だったが、『竹の子』なら加入する」という会員もおり、1つの段階を越えたと感じている。

現在の会員数は約4,000名で、減少傾向である。高齢者が増加する中での会員の減少は大きな課題であり、役員等でも話し合い、活発で楽しい活動を行おうと取り組んでいる。また、クラブの重要な取組として「友愛活動」がある。しばらく参加していない会員がいた場合、担当チームで該当の会員宅を訪問、必ず安否確認をし、困りごとがないか話を聞く。それを持ち帰り役員会にかけ、区や専門家の支援が必要な場合はそれらにつなげる取組である。

目黒区に22か所ある「老人いこいの家」が高齢者の日中の居場所となっている。ひきこもり状態になっている高齢者にも通ってもらえるよう、竹の子クラブ連合会は様々な活動に取り組んでいる。

また、町会長も兼任しているが、保健医療福祉計画素案の54ページ「施策6 災害時要配慮者支援の推進」の主な取組で、「名簿登録者の拡大と顔の見える関係づくり」が非常に大事だと思う。毎年更新された名簿が届くが、登録者は年々増えている。町会でも名簿の方々と面談し、災害時についての取り決めをしていくつもりだが、現状はなかなか手が回らない。「顔の見える関係づくり」は素晴らしい発想だと思うが、どのように進められるのかお伺いしたい。

健康福祉計画課長 災害時要配慮者名簿の説明のため、区内の町会を訪問しているが、同様の質問をいただく。区としては、普段から名簿を基にどこにどのような方がおられるのかに留意していただく、町内行事などが再開している場合はその時々で声をかけていただく、防災訓練等を行っている場合にはその時に声をかけていただく等をイメージしているが、町会によっては個人情報保護の観点や、人間関係の希薄さから名簿を持たないところもあり、積極的な案内や説明会を行うことが重要と考えている。

町会の方も高齢となり「自分達が助けてほしいくらいだ」とよく言われるが、避難支援の必要な方がどこにいるかを知り、自分に何ができるかを考えることが、地域のつながりの1つとなり、一助になると思う。発災時に一人でも多く助かる方策を考えていきたいという思いで進めており、ご理解・ご協力をいただきたい。

委員 民生委員児童委員でも同様の活動をしているが、身体が弱っている方、障害のある方から「来てほしくない」と言われるなど、声をかけにくい状況もある。また、行事等で受け入れる側の体制が整っていない場合もあり、難しいと言わざるを得ない。まず1人から出てきていただき、「あの人が出ているなら…」といい連鎖が起こればうれしい。

先ほどからの話を伺い、若い世代の方がそれぞれの立場で一所懸命取り組んでおられ心強い。私達高齢者も見習うべきところが多々あると思う。

新型コロナの影響で、ひとり暮らし高齢者への訪問が難しかった。新型コロナが5類に移行し、訪問を再開したが、認知症の症状が進んだ方をお見受けし、人と会わない、話をしないというのはよくないと痛感している。

目黒区の場合は高齢者施設等や介護予防の取組が充実してきており、高齢者にはかなり手厚いと思う。フレイル予防活動への参加者も増え、自分の身体への健康意識は上がってきていると感じている。出生率の低下に関連して、若い世代が子育てしやすく、働きやすくなるよう、手厚い支援があれば、目黒区はもっとよくなると思う。ひきこもりやヤングケアラーの問題でも、家庭にもっと目を向けた支援をお願いしたい。

ひとり暮らしの高齢男性が「高齢者の社会参加とは、周囲の人へ甘え上手になることだ」と話されたことを思い出した。地域の人々の力を借りて頑張っていくことは大事だと感じている。

会長 大事なご意見等をたくさんいただき感謝する。今後どう活かしていくかは引き続き考えていきたい。

3 次第4 今後の予定について

会長 次第4、今後の予定について、事務局よりご説明願う。

健康福祉計画課長 委員の皆様、2年にわたり、また温かく貴重なご意見に感謝

申し上げる。では、資料5をご覧ください。(資料5により説明)

会長 資料5の説明について、ご質問等はあるか。

【意見なし】

4 次第5 その他

健康福祉計画課長 机上に配付されている会議録は内容をご確認の上、修正等があれば、12月19日までに事務局へお知らせいただきたい。

会長 予定の議題は終了となる。3計画素案のまとめに尽力された健康福祉部長から挨拶をお願いしたい。

健康福祉部長 今期の審議会委員の皆様には、令和4年7月から2年間の任期でお願いしてきた。今般いただいた答申を基に計画素案が結実し、一定の結論が出たと考えている。この間、委員の皆様からは熱心にご議論いただき、また、先ほどそれぞれのお立場から、非常に貴重なご意見をいただいたことに感謝申し上げます。いただいたご意見は、公募の意見と併せて、計画の修正等が必要か検討を進めたい。皆様の任期は7月までだが、こうしてお集まりいただくのは本日で最後となる。これから成案を取りまとめ、事業を実施していくが、皆様には委員を外れても、計画の進捗について区にご意見を頂戴できればと思っている。改めて区側を代表し、これまでのご協力に感謝申し上げます。

会長 丁寧な挨拶に感謝する。最後に副会長・会長からも一言と時間をいただいている。副会長からお願いしたい。

副会長 この期間、皆様に感謝申し上げます。本来は締め言葉だが、皆様のご意見を聞いて気になる事が出てきてしまい、来期に向けて申し上げます。

1つ目、住区はどうなるのか。今回全く議論に上がらなかった。

2つ目、近隣の世田谷区・渋谷区ではLGBTが進んでいる。目黒区も人口の約8%がLGBTの方であると言われており、来期はもう少し考える必要がある。

3つ目、災害について非常に心配しているが、これは福祉だけでは限界があり、都市計画や住宅等、関連部署との連携が必要と考える。また、今年に関東大地震から100周年にあたり、首都直下型は火災が一番危険であると聞いている。火災が起きやすい場所の予測など、危険箇所をある程度把握でき、意識を変えるためのマッピングが必要ではないか。

最後に、基本理念で、障害者計画だけ「誰もが自分らしく輝きながらともに暮らす」となっている。“輝きながらともに”の部分はとてもよく、障害者以外にも当てはまるため、来期には他の計画にもあってもよいと思った。

会長 副会長から、大事なご指摘とともに、素晴らしいご提案もいただいた。ぜひ検討いただければと思う。

素晴らしい計画ができたが、審議会でも議論のあった「これを実行する福祉人材は」という点については心配がある。先日、ある自治体で「災害時の避難のとき、どう中高校生にも担ってもらうか」という議論となり、世代間の連携も地域の力として大事になってくると感じた。目黒区では福祉教育を強調しており、子ども達に福祉の視点を学んでもらう在り方は、区の歴史として大きいと感じている。

本日皆様から「区民として様々な場で活動に取り組んでいる(いく)」というお話を聞きながら、「区民としてどう活動できるか」を、世代の垣根なく話し合い、協力し合う流れが出来ることは大きな力になると改めて思った。

本日が最後となり、皆様には来年度からまた、それぞれにご活躍の場があると

思うが、可能ならばまた一緒に、継続して区の福祉を考えたい思いがとても強い。

目黒区を大事に思う皆様のような、区民の方々を活かせる福祉の検討が来年度以降も続くことを願っている。2年間の感謝を申し上げる。

これをもって閉会とする。

5 閉会